

算数科学習指導案

単元名「時こくと時間」

<授業改善の視点>

一定時間前後の時刻を求める場面において、「時計で遊ぼう」を使用して針の動きに着目して考える活動を行うことで、時こくや時間の関係を理解し、時刻を求めることに有効だろう。

本時の学習

<ねらい>

一定時刻前後の時刻を求める場面において、時計の針の動きや数直線の図をもとに考える活動を通して、時刻や時間の関係を理解し、時刻を求めることができる。

学習活動	指導上の留意点・T2の役割・ICT活用
1 前時までの振り返り (5分) S: 時間は、時計の目盛を数えたり、5 とびを使って求めた。	・長い針が一回りする時間は？等の質問から、1時間=60分や1日=24時間等の振り返りや前時までの「時間の求め方」の振り返りを行うことで、本時がスムーズに進むようにする。
2 問題提示・めあて作成 (5分) S: 今日は、時こくを求める T: どんなめあてがいいかな？ S: 時こくを求めよう？ T: どうに求めようか？	・前時までは「時間」を求めていたが、本時では「時こく」を求めることを確認し、問題提示をして求め方を知りたいと気付くようにすることで、本時の課題「時こくのもとめ方を考えよう」に対するめあてを児童の言葉でめあて作成し、学習意欲を高める。
<めあて> 時こくは、どのようにもとめたら いいのだろう？	
3 問題解決にむけ、自分の考えを持つ。 (10分)	・教員のタブレットで一定時刻(10:30)を提示することで、求め方を考えやすくする。 ・T2は、児童がうまくタブレットを使用できない場合、サポートする。
4 発表し他の考え方も検討する。 (5分) S: 長い針を5分ずつ進めて行くと、午前10時50分です。(時計の針を動かす考え方)	・「時計で遊ぶ」を使用し、実際に針を動かして考え時間を求める活動から、求め方を考える。(②擬似的な具体物の操作) T2: 数直線を使った考えを発表することで、針を動かす5飛びのほか、数直線の考えもあると気付くようにする。
5 問題の解決を行う。 (10分)	・時間と分どちらに注目すべきか考えさせることで、短針の動きを見ると気付くようにする。
【知識・理解】(発言・ノート) 時刻の文字盤や数直線をもとに、針の動きに着目し、一定時刻前後の時刻を求めることができる。	
6 本時のまとめを行う。 (5分)	・めあてを再確認し、まとめを行う
<まとめ> 時こくは、時計の針を進めたり、図を使ったりすると求められる。	
7 振り返り・練習問題を行う。 (5分)	・学習内容の振り返りを行った後、時間があれば「時計で遊ぶ」のミニゲーム(これって何時?)で練習問題を行う。
<振り返り> (視点: 分かったこと・今日の学習で考えたこと) S: 針を5分ずつやすすめたり、図を使ったりして、時こくを求めた。 S: 時間や分で、どっちの針を見るか、(針を見分ける)気をつけると分かった。	

板書計画

めあて

時こくは どのように もとめたら いいのだろうか？

もんだい

午前 10 時 30 分から 20 分たった
時こくは 何時何分ですか？



もんだい

午後 2 時の 4 時間後の 時こくは
何時ですか？



まとめ

時こくは、時計の針を進めたり、図を使ったりすると求められる。

振り返り